



# 西川町 議会だより

「元気な子どもたち」シリーズ7

「にしかわ保育園」のみなさん

活動紹介は裏表紙にあります。

107号  
2019.1.15発行  
山形県西川町議会

「住んでいたいまちづくり」を 啓翁桜を議会全体でPR 6人の議員が町政を問う 町に対して政策を提言 町の事業を議会が採点 活かそう我が町に 知りたい！聞きたい！ 輝きを増す子どもたち	<b>【新年のごあいさつ】</b> … 2頁 <b>【12月定例会】</b> … 3 <b>【一般質問】</b> … 6 <b>【常任委員会活動報告】</b> …12 <b>【行政評価】</b> …14 <b>【常任委員会合同行政視察報告】</b> …16 <b>【読者モニターの広場】</b> …19 <b>【表紙のご紹介】</b> …20
--	--

# 12月 定例会 《啓翁桜議会》

# 桜をまといて はなやかに



▲啓翁桜に囲まれながら開会

平成30年12月定例会は12月3日から7日までの5日間の会期で開催されました。本定例会は「啓翁桜議会」と銘打ち、町の特産品である啓翁桜のPRを行いました。町からは人事案件1件、条例改正5件、30年度各会計補正予算4件などが提出され、慎重に審議した結果、全議案を可決しました。

一般質問は6人の議員が12件について行いました。請願は1件を採択の上、議員発議にて意見書の提出を可決しました。

「啓翁桜議会」の初日となった3日は大勢の報道陣がかけつけ、開会前15分間

## 賑わった初日

議長席の背後には大きなタペストリー（壁かけ）やのほりを飾り、各机には啓翁桜を二輪ずつ配置しました。出席者全員が着席する中、各社の報道カメラが議場内を撮影するというのはこれまでになく、その注目度の高さがうかがえました。その日の夕方には県内ニュースで紹介され、PRの役割を果たしました。

町は、通年農業を目指す冬期間の作物として、花木のスノーボールや啓翁桜の生産に取り組んでいます。中でも啓翁桜は早春を告げる花として、近年、正月用や贈答用に需要が高まっています。

このため、啓翁桜の特産品として、販売額一億円を目指した大規模園芸団地化などの取組強化が行われています。

議会としても、全国で一番早く咲く、雪国から届ける冬の桜として啓翁桜の振興に少しでも貢献できればと、今回の12月定例会を「啓翁桜議会」と銘打ち、会期中、議員はもろん町職員も啓翁桜ネクタイやスカーフを着用して議場に臨みました。



▲啓翁桜ネクタイとスカーフ

## 開催の趣旨

## 啓翁桜を議会全体でPR



後列 左から奥山敏行議員、宮林昌弘議員、飯野咲子議員、佐藤耕二議員、佐藤幸吉議員、大江広康議員、大泉奈美議員  
前列 左から古澤俊一副議長、伊藤哲治議長、青山知教議員

## 「住んでいたいまちづくり」を

西川町議会議長 伊藤 哲治

新年おめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平成30年は、異常気象の影響等で稲作の収穫量が極端に減少したり、山菜きのこの収穫量が落ち込んだりと大変な年でしたが、西川町では人命にかかわるような豪雨や地震等の大きな災害もなく、改めて安全、安心な町であることを実感しました。その反面、急激な過疎化や少子高齢化に伴い人口減少が進み、町全体の高揚感や活力が薄くなっている現状を前にして、議会は町民の皆さま一人ひとりに寄り添ったきめ細かな動きができる体制にしていくことが大切だと感じたとところであります。

今、県内はもとより全国で議員のなり手不足が問題になっています。西川町議会としては、平成29年に議会活性化議員懇談会を立ち上げ、政治への無関心、なり手不足、議員報酬の見直し、選挙活動のあり方など多岐にわたり幾度となく議論を重ねてきました。しかし妙案

はなく、中学生の模擬議会の開催や、町民との対話の集いの充実、議員手当の創設の検討など、議員は町全体の奉仕者であることを意識し、さらなる資質の向上と、町民への説明責任を果たすことが、最も大事なことと認識したところです。

第6次西川町総合計画も5年が経過し、今後5年間の計画見直しを行なっています。少子高齢化や雪対策など西川町が抱える課題をしっかりと見据え、計画に基づいた各種の事業が確実に実行されるよう、行政側への提言も含めた議会活動を重ねていきます。

今年も平成の時代に終わりを告げ、新しい元号の下で未来へと舵を取る節目の年です。自助、共助、公助で互いに協力し、健やかに安心して暮らせる「住んでみたい」、「住んでいたい」、「住んで良かった」と言える町を目指し、議会全体で危機感を持つて誠心誠意活動をしていきますので、町民の皆さまのご理解とご協力を心からお願ひ申し上げ、新しい年にあたつてのごあいさつとさせていただきます。



# 12月定例会

《啓翁桜議会》

## 予算関係提出議案及び審議結果

### 第3回臨時会 (11月12日)

議案番号	件名と主な内容	議決結果	
議第53号	30年度一般会計補正予算(第5号) 51億8124万2千円(642万6千円追加) 【土木費】公共下水道事業特別会計繰出金 642万6千円	可決	全員賛成
議第54号	30年度公共下水道事業特別会計補正予算(第1号) 1億7910万1千円(642万6千円追加) 【施設費】浄水センター脱水機主要部品更新工事 642万6千円	可決	全員賛成

### 第4回定例会 (12月3日～7日)

議案番号	件名と主な内容 (人事院勧告等に基づく給与以外)	議決結果	
議第60号	30年度一般会計補正予算(第6号) 53億7937万4千円(1億9813万2千円追加) 【総務費】町内公共施設WiFi施設整備 236万3千円 【民生費】障害者自立支援事業 428万円 【衛生費】小山鉤山鉤害防止 坑内水中和処理維持管理委託料 7万9千円 【農林水産費】大井沢小水力発電事業負担金 250万円 【商工費】起業支援事業補助金 100万円 【土木費】住宅建築支援補助金 300万円 【消防費】坂の上消火栓更新工事請負費 87万5千円 【教育費】小学校冷房設備増設工事設計監理委託料 594万円 小学校冷房設備工事請負料 1億1448万円 中学校冷暖房設備増設工事設計監理委託料 259万2千円 中学校冷暖房設備工事請負料 4320万円 【災害復旧費】農林業災害復旧事業補助金 143万6千円	可決	全員賛成
議第61号	30年度国民健康保険特別会計補正予算(第3号) 6億2898万9千円(3111万4千円追加) 【保険給付費】一般保険者療養給付費 2478万円 一般保険者高額療養費 622万円	可決	全員賛成
議第62号	30年度公共下水道事業特別会計(第2号) 1億7926万5千円(16万4千円追加) 【施設費】マンホール内部高圧洗浄委託料 14万6千円	可決	全員賛成
議第63号	30年度介護保険特別会計補正予算(第2号) 7億5195万8千円(890万8千円追加) 【地域支援事業費】訪問型サービス事業費 100万円 【諸支出金】29年度実績報告に伴う返納金 790万5千円	可決	全員賛成

### 議会として同意

☆町教育委員会委員の任命  
松田 光子さん(吉川)  
平成30年12月22日をもって笹島智子さんが任期満了となるため後任として任命する。(全員賛成)

### 全議案を可決

☆町税条例の一部改正  
地方税法の一部改正(※1)に伴い、規定の整備を図る。(賛成8、反対1/飯野咲子)

#### ※1 改正の内容 「軽自動車税の環境性能割の創設」

消費税が引き上げられる来年10月1日から自動車取得税が廃止され、新たに、自動車税と軽自動車税に「環境性能割」が創設されます。  
これは、新車か中古車かを問わず、取得したときに車両の通常の取得価格が50万円を超える場合、その環境性能に応じて非課税から最大2%課税となります。  
また、現行の軽自動車税は「種別割」と名称が変更となりますが、その税率(金額)は現行と変わりありません。  
以上のように来年10月から、軽自動車税は「環境性能割」と「種別割」の2つの構成となります。

☆特別職の職員の給与に関する条例の一部改正  
常勤の特別職及び議員の期末手当の支給月数を改正するとともに、6月期、12月期の支給月数の標準化を図るため改正する。(全員賛成)

☆一般職の職員の給与に関する条例の一部改正  
人事院勧告及び山形県人事委員会勧告に基づき、一般職の職員等の初任給調整手当、宿日直手当、勤勉手当、給与、管理職手当、期末手当を改正する。(全員賛成)



▲アリーナの暖房機器

☆社会体育施設条例の一部改正  
体育館アリーナの暖房を半分使用した場合の料金を1時間当たり10000円に定める。(全員賛成)

#### ☆定住促進住宅条例の一部改正

既に入居が始まっている1棟6戸の棟を「定住促進住宅A棟」に、現在建築中で、これから入居者募集を行おうとする1棟4戸の棟を「定住促進住宅B棟」に、それぞれ名称を変更する。  
また、住所をこれまで分譲地の5区画5筆の代表地番である「大字海味128



▲定住促進住宅B棟

8番地25」としていたものを合筆し、「大字海味1288番地7」に改める。(全員賛成)

#### 請願を採択し関係行政庁に意見書を提出

近年、規制改革を推進し、シェアリングエコノミー(※2)の成長を促すという名目で、運転者と利用者を仲介し、一般の運転者が自家用車を用いて有償で旅客運送を行う、いわゆる「ライドシェア」の容認を

求める動きが出てきています。  
この度、このライドシェアの導入に反対する請願を議会として受理したことから、その審査を総務厚生常任委員会に付託して実施するとともに、議会全員協議会においてもライドシェアに関する意見交換を行いました。  
これらの検討をふまえ、本請願を採択し、関係行政庁に次のとおり意見書を提出しました。

☆ライドシェアの導入に反対し、安全・安心なタクシーを国に求める意見書  
①安全の確保、利用者の保護等の観点から問題のあるライドシェアの導入は行わないこと。  
②地域公共交通として、大きな役割を担っているタクシー事業の維持・確保に向けた諸対策を講じること。(全員賛成)

※2 シェアリングエコノミー  
物やサービス、場所などを多くの人と共有、交換して利用する社会的な仕組み。共有型経済ともいう。



佐藤 耕二 議員

一般質問

廃校施設

旧西部中学校体育館の無償譲渡契約を検証する

町長 当時は企業誘致と雇用の確保を重視した



▲旧西部中体育館

公募はしたのか

問 町長は24年12月の定例会で、ケーン・スチール(株)より借用

平成25年1月、住宅用パネル製造工場用施設として、町がケーン・スチール(株)(当時)に旧西部中学校体育館を無償譲渡する契約を議会の同意を得て締結した。しかし30年2月頃から事実上の倒産状態になり今日に至っている。町民からも今後を心配する声があり、次の質問をする。

東京商工リサーチによると29年3月期の負債総額は約5億2千万円で、25年から赤字決算である。町は実態調査をしたのか。

調査・報告は

の申し出があったと答弁しているが、公募はしなかったのか。

答 24年8月27日から10月1日までの間、廃校舎利活用の一般公募を実施し、ケーン・スチール(株)からも応募があった。

廃材等の処分は

問 30年4月5日に町は体育館を差し押さえているが、解体が生じた時、中の廃材等の処分をどうするのか。

答 現在は様々な手続きを進めているところであり、それらを考慮しながら検討していきたい。

リスク問題

問 契約締結当時、議会はリスクの問題

税の滞納

問 町税等の滞納は29年秋から始まっていると思うが、詳細の年月日と金額は。

答 以前から企業誘致の要望はあった。現実として様々な困難がある中で、ケーン・スチール(株)側には是非とも西川町に設立したいという意思があったことと、東日本大震災後の住宅需要の高まりという点を考慮した。企業誘致にリスクが伴うことは理解しているが、町内の雇用を確保したいという考えがあり、実際に概ね16人の雇用があったことをご理解いただきたい。



▲荒れ放題の旧西部中グラウンド

答 町税等に係る事案については、地方公務員法第34条及び地方税法第22条で地方税に関する守秘義務が規定されている。また、その運用にあたって「滞納者名及び滞納額の一覧であっても、納税者等の利益を保護し、行政の円滑な運営を確保するため、議会の審議の場において、開示を求められた場合においても、原則開示すべきものではないもの」とされており、回答できない。



宮林 昌弘 議員

一般質問

地域公共交通

本町の地域公共交通の整備、拡充について

町長 地域の実情に基づく利用しやすい体系を構築する

路線バス運行の改善

問 路線バス運行開始から41年経過しており、利用者の利便性や運行上の課題をどのようにとらえ、検証しているのか。

答 利用者減少という課題があり、毎月運行委託先の月山観光タクシー(株)と検討会を実施しているほか、年2回の路線バス体系連絡調整会議を開催し、路線バスのさらなる効果的な運行体系など改善すべき点を検討している。

路線バス運行の改善

問 1日あたり、左沢方面は7人前後が、寒河江方面は20人前後が、谷地方面は10人前後が、それぞれ利用している。

問 高校通学路線の利用状況と、通学生や保護者からの苦情や要望への改善点、復路の活用策はないか。

答 1日あたり、左沢方面は7人前後が、寒河江方面は20人前後が、谷地方面は10人前後が、それぞれ利用している。

時間帯により混雑するなどの意見もあり、今後改善すべく方策を協議している。復路便は、本町の温泉やイベント、観光等への誘客に活用することも検討したい。

問 平成12年4月から200円均一の料金としているが、見直しをするのか。

答 当面は現在の料金体系を維持したいと考えている。

免許証返納者への支援

問 自主返納者に対し、2万円分のタクシー利用券やバス回数券が交付されるが、1年限りでなく3年間くらい継続できないか。また、電動車(シニアカー)の購入補助を考慮できないか。

答 運転免許証を返納するきっかけに結

地域乗合タクシー

問 路線バスの乗客の少ない西部地区やデマンド運行の際は、ジャンボタクシーなど乗合タクシー運行に切り替えてはどうか。

答 利用者の減少した地域では、一部デマンド(予約)制で運行してきたが、その利用者も減少していることから、地域の実情に基づき利用しやすい公共交通体系の構築を図っていく。

二次交通の運行改善

問 月山誘客の二次交通として運行している、山形空港やJRさくらんぼ東根駅から

の月山ライナー(乗合タクシー)の運行改善をどう考えているか。

6次総への反映

問 第6次総合計画の後期計画の主要施策に「公共交通の充実」を挙げている。地域公共交通を整備、拡充するために、町民の要望、意見を6次総に反映すべきではないか。

答 町民アンケートで要望の多かった雪対策や高齢化社会対策に関連し、地域公共交通対策についても6次総の後期計画に含めていきたいと考えている。



奥山 敏行 議員

一般質問

山岳観光 朝日連峰山岳観光の拡大整備を

町長 関係者と連携しながら対応していく

問 今年度、駐車場候補地や森林管理署所管林道の町道編入、いわゆる併用林道について、秋田森林管理局から一定のご理解をいただいた。担当者間の具体的な協議や現地の

答 今年度、駐車場候補地や森林管理署所管林道の町道編入、いわゆる併用林道について、秋田森林管理局から一定のご理解をいただいた。担当者間の具体的な協議や現地の

登山口・駐車場整備

磐梯朝日国立公園の朝日連峰山岳観光整備状況について、3町の各議員がそれぞれ平成26年3月定例会で連携を提案した。今回、改めて提案することを相談していたところ、11月9日付けの山形新聞に「朝日連峰振興連絡会」発足の記事が掲載された。このことをふまえ、次の質問をする。

問 大井沢から日暮沢小屋登山口までの道路整備と駐車場拡張整備が遅れている。これを町が独自に進めることはできないか。

答 今年度、駐車場候補地や森林管理署所管林道の町道編入、いわゆる併用林道について、秋田森林管理局から一定のご理解をいただいた。担当者間の具体的な協議や現地の



▶ 年少少女自然塾の朝日連峰登山

問 登山届の提出や記入方法が登山口ごとにバラバラだ。最近ではスマートフォンなどで利用するソフトも簡単に作れるようになり、朝日連峰を取り巻く各地域の山岳会や朝日連峰保全協議会など

ソフトの構築

打ち合わせなどを行い、今後も設計等を含めて計画的に推進する。

答 本町では、県の土木関係設計単価を参考にしながら賃金を設定するなど、労働者の賃

が連携して、登山届をデータベース化したり、SNS環境を整備して登山者から書き込んでもらったりできるような良いソフトを作れないか。

答 県警察本部ではインターネットを利した届出を既に実施している。提案のとおり、各地区山岳会や朝日連峰保全協議会、朝日連峰振興連絡会などが連携しながら登山届

問 朝日軍道の活用 400年前に直江兼続公によって開削された朝日軍道は歴史口マンあふれる山岳道路であり、これを観光誘客拡大に活用できないか。

答 朝日軍道は大江町、朝日町、そして本町に密接に関係のある歴史の道であり、この魅力あるストーリーを活用することは、朝日連峰の振興策の一つであると考えられる。

問 2020年の東京オリンピックに向けて、モルドバ共和国のホストタウンとして月山湖の1000mコースは間に合うのか。

答 1000mコースの整備は、現時点で多額な補助費用に対する有効な補助制度等を掌握するまでには至っていないため、いつどれくらい規模で整備を行うかは明言できないが、新年度の予算編成に合わせて一定の方向付けを行いたい。

1000mコースは間に合うのか 新年度予算で一定の方向付けを行う 町長



飯野 咲子 議員

一般質問

まちづくり 地域循環型まちづくりのさらなる推進を

町長 その重要性は十分に理解している

問 地域から物を買うことや、農林業や観光業、福祉など全ての連携で経済が地域を循環し、また、町外からの財の獲得を図れるような条例が必要ではないか。

答 提案のあった条例の制定は考えていないが、町内の経済循環体制の推進の重要性や外貨獲得の必要性を十分認識しながら、これまでも地域循環型のまちづくりを進めてきているものと考えている。

小規模企業振興基本条例の制定を

住宅リフォーム補助事業やプレミアム付商品券発行事業などに取組んでいるが、地域経済が潤わない。町も町民も業者もさらなる話し合いが必要と思いい、次の質問をする。

問 調査票の送付でなく、町長を含め職員全員の実地研修として、町内全戸を訪問し「生活実態調査」などに取り組む価値はあると思うが、どうか。

答 現場に出て町民と割って意見交換ができるような関係をつくるのが大切だという観点から、地域支援職員の派遣を行なっている。

公契約条例の制定を

問 町内業者の下請け賃金が安く困っている。労働者の賃金を守り、雇用の安定を図る条例を制定してはどうか。

答 本町では、県の土木関係設計単価を参考にしながら賃金を設定するなど、労働者の賃

町職員の実地研修を

金には十分に留意して事業を発注している。最低賃金を上回る独自の最低賃金額を規定する公契約条例の制定は、最低賃金法の趣旨に反する疑念もあり、国や県、市町村の動向を注視していきたい。

月山湖売店と水の文化館について 寒河江ダム 町長 ダム周辺のPRや防災などの活用も考える

問 月山湖売店の通称名を今の「関の茶

今年4月からガラリと変貌した月山湖売店に驚き、次の質問をする。

砂子関茶屋に

問 月山湖売店の通称名を今の「関の茶



▲月山湖水の文化館

水の文化館の撤去を

問 役目は終わり、空き家状態の建物は

答 どのような経緯で名称が選定されたかはわからないが、多くの方から受け入れられるイメージとして付けたものと思う。指定管理者である西川町総合開発(株)には、そういう意見があることを以前から伝えていく。

撤去し、駐車場にしてはどうか。

問 役目は終わり、空き家状態の建物は

答 施設整備後、約25年が経過し、施設や設備の老朽化が進み、整備当時の機能を維持するための経費と活用効果など総合的な検討が必要となっている。しかし、設置目的をふまえ拙速に設備の更新を行うことはせず、これまで様々な企画展示などを進めてきている。今後は、ダム周辺のPRや、防災などの活用も考える。



大泉 奈美 議員

一般質問

総合産業

総合産業に「稼ぐちから」、「もうかる仕組み」の視点を

町長 経済効果の創出を目指す

夢のある施策を次の世代へ

啓翁桜産業を進めるとともに、インスタグラムでの情報発信や、啓翁桜はちみつの開発、今回の啓翁桜議會で使用しているネクタイ、スカーフの販売

返礼品の米に関しては、米月山の取扱いとなっている。

ふるさと納税返礼品として人気の高い「米」の仕入れや発送などの取扱いは町内の各業者が携われるようになってきているか。

みんなが潤えるように

町の第6次総合計画の後期計画が策定されるにあたり、「稼ぐちから」、「もうかる仕組み」の視点で、農業や林業、商工業、観光業について次の質問をする。

今年度、森林所有者の経営管理権を意欲と能力のある林業経営者に市町村を介して集積、集約化することにも、31年度から交付される森林環境税も活用し、経済ベースに乗らない森林などの管理を市町村が行う「新たな森林管理システム」を構築することとしている。

森林資源を活用し収益を上げるには、

新たな森林管理制度

大変夢のある意見だと思ふ。いろいろな物に波及させて経済効果を生むというのは、まさに町が進めている総合産業そのものであり、意見を参考にしたい。

など、啓翁桜にちなんだ夢のある施策を打ち出し、次の世代へつないでいくべきではないか。

らくトレの今後

8月に行われた「らくトレ（六十里越街道トレイルランニング）」の町内への経済効果は、継続して実施するのか。

今後開催される出羽の古道六十里越街道保存推進委員会などで経済効果が検証され、次年度の開催の有無についても検討される。

動きやすい組織に

月山朝日観光協会の機能強化と組織のあり方は、

観光協会の自立と法人化は町の懸案であり、これまでも実現に向けた検討を実施してきた。財政的な面で前に踏み出せない状況だが、まずは自立化を目指すということから専務理事を配置した。

衛生面の対策

レジオネラ症対策や浴室内の柱や壁の黒カビ対策は、

町民が、ミニデイや「ぴんしゃん広場」などで広く利用している日帰り入浴温泉施設の管理と機能強化について次の質問をする。

温泉施設の安全性と機能強化

町長 適正な管理を実施している

公衆温泉施設である性格上、一般のお客様のご利用もあることから、大広間や小部屋等の改修やスタッフの配置などが想定され、十分な検討が必要であると考える。

健康福祉対策

カラオケ、トレーニング施設などの機能強化はできないか。

実施されている。



水沢温泉館



佐藤 幸吉 議員

一般質問

諸課題

以前に質問した事項の検討結果はどうなっているか

町長 それぞれ検討し進めることとしている

観光案内看板

網取地区の国道112号沿いに立っている観光案内看板を撤去、又は内容を変更して有効活用することの検討はどうか。

町と観光協会との協働による「しかわ観光ビジョン」の策定に向けた作業を実施



指摘している観光案内看板

定住促進住宅A棟6戸のうち、現在

みどり団地の未売却地3区画を長期賃貸住宅へ変更することの検討はどうか。

みどり団地未売却地

このビジョンにおいて、観光看板を観光戦略の重点項目と捉え、町全体のイメージ向上とわかりやすい道しるべはどうかあるべきかなどの検討を行なってきている。指摘のあった看板も十分に検討し、進めることとしている。

西山杉のPPR

新体育館の椅子に西山杉を活用している旨をPRすることの検討はどうか。

多くの木材を使用し、建築した体育館の最大のアピールポイントとして、林業関係の会議やスポーツ関係の大会、イベント等で紹介に努めてきている。

一般質問で指摘を受けたこともあり、体育館入口部分の1、2階案内図に紹介する文言を入れていくが、さらに効果的なPRの表示などを行なっていきたいと考えている。

危険箇所の把握

通学路の途中に、屋根からの落雪や雪で見えない堰、沼などの危険な箇所はないか。また歩道の除雪は万全か。

地域の方や保護者から情報提供もいただながら、町としても雪の状況の確認



間沢地内の歩道のない通学路

小学校では、車が来た際には除雪されている道路脇に退避するよう指導している。気を付けていただければならない箇所を具体的に伝え、児童に注意を喚起しているところである。

歩道の確保されていない海味網取線の間沢川橋から山形銀行までの道路を拡幅又は歩道の確保など町はどう考えるか。

と安全対策について学校と連携をとって進めている。歩道の除雪は通学に支障のないよう努めている。

冬場の通学路の安全対策は万全か

町長 学校と連携して安全対策を進める

※このほか「オリンピック選手をたたえ、後輩にはげみを」というテーマでも一般質問を行なっています。



▲政策提言書を町長へ

# 政策提言を活かせ!

総務厚生、産業建設両常任委員会は平成30年4月から事務事業調査を行い、12月25日、町長に対して政策提言書を出しました。それを抜粋して紹介します。

議会では、これからも町の政策が効率よく公平に実行されるよう監視機能を充実し、必要に応じた提言を行なっていきます。

なお、今回の提言に対して、2月中に町から回答を得る予定です。

## 総務厚生 常任委員会

### 里山社会・文化研究所設置運営事業

第6次総合計画に基づき、町民一人ひとりが西川町に暮らすことの優位性や楽しさを感じることができるよう、里山の生活や文化など地域の宝を調査、研究、検証することを目指す。里山社会・文化研究所が設立された。

しかし、具体的な動きが見られないため、研究所の今後の取組みを具現化し、町民から理解されるものとして運営すべきと考える。



▲まちづくり応援団 関東ブロック総会の様子

値観を理解できるように、具体的な取組みを示して町民との協働で事業を進めること。

設立から21年が経過し、新規会員の獲得や事業の活性化が課題になっている。

法人としての運営にあたっては、3年平均で100人の会員の確保と、それに見合う受託業務の拡大、開拓が課題になっている。

大きく角度を変え、旧大井沢小中学校の廃校舎の活用の観点から大井沢支所（診療所を含む）の機能移転や自然教育学習センターの運営などを包含した事業展開とすること。

県内に居住する西川町出身者に呼びかけ「県内ブロック」を新設すること。ふるさと納税とリンクした会員勧誘を行うこと。

「80歳現役」を標榜する町としても、会員確保に向けた町民への趣旨説明や勧誘にもっと積極的に取り組むよう指導すること。

組織の見直し検証と今後の方向性

世話人会の年齢構成をバランスのとれたものとし、若者からお年寄りまで広く勧誘すること。

受託業務の拡大と開拓

構成メンバーの人も含む、内部検証をした上で、期間を設定し事業を中止することも選択肢として捉えてもらいたい。

例年実施している事業がマンネリ化し、会員への魅力が薄れてきている。活性化に向けて見直し、新たな展開を検討すること。

業務受託料5000万円

また、柔軟な発想に基づく様々なジャンルの製品開発に関する研究、検討を進めるべきである。

誘客支援事業として会員に飲食小売り10%、宿泊20%などの割引をしている。その実績を検証し、もともと町内消費拡大に反映されるよう見直しを行うこと。

企業や個人に委託料の10%を事務費として加算しているのに対し、町は8%となっているので10%に統一すべきである。

## 産業建設 常任委員会

### 西山杉の 利活用推進

西山杉の総生産量のうち本町の生産量は9割を占めるが、その主産地は大江町と認識されている。

このことをふまえ、より多くの町民の方々が西山杉に興味を持ち、自らの生活に取り入れられるよう提言する。

また、柔軟な発想に基づく様々なジャンルの製品開発に関する研究、検討を進めるべきである。

全出生児に対する「出産祝い金」事業に合わせ、一つひとつに子どもの名前を刻印した西山杉の積み木セットを贈呈する。

多くの消費者から愛されるようなデザインや、高い品質管理、機能性、安全性などの条件をクリアできる製品を製作する職人、デザイナーなどが必要である。

好評を得た住宅を、取組みの集大成として実際に建築し、一定期間はモデルハウスとして公開し、その後は抽選などにより売却する。

西山杉の総生産量のうち本町の生産量は9割を占めるが、その主産地は大江町と認識されている。

職人の育成

木質バイオマスの活用

町民を対象に募集し、特に優秀なアイデアを商品化に結びつける。

育英奨学金制度の枠を広げ、木工製品の製作技術を専門的な機関等で学ぶ方に対する支援制度を新設する。

木質バイオマスボイラーの導入

西山杉を含め全国の杉材による木工製品の展示即売会を、休眠中の水の文化館で定期開催する。

建設用資材としてPPR

町の組織体制の整備

西山杉の総生産量のうち本町の生産量は9割を占めるが、その主産地は大江町と認識されている。

木質バイオマスボイラーの導入

町の組織体制の整備

# 議会として8事業の評価を実施

# 行政評価



西川町議会では平成25年度から行政評価を行なっています。議会の監視機能を生かして、町が実施している政策、施策、事務事業等について、必要性や妥当性、効率性、成果等の4つの視点から評価しました。

今回は29年度に実施された事業の中から、総務厚生常任委員会と産業建設常任委員会でそれぞれ4事業の計8事業について評価を行いました（表1参照）。

この結果をふまえ、特に評価の低い5つの事業について、議会としての判定理由と意見を公表します。

事業	寒河江ダム関係に要する経費	教育旅行拡充推進事業
評価	改善し継続	改善し継続
判定理由	寒河江ダム及びその周辺施設は、水にこだわったまちづくりのシンボルの一つであり、必要性も妥当性も高いのに、思うような成果が出ていない。特に中核施設である水の文化館の利活用策を早急に進めなければ、ますます集客数は減るばかりである。	ピーク時の年間22校とまではいかないものの、この事業の必要性は高い。受入側の旅館や民宿等の減少だけを言い訳にせず、受け入れるために何をすべきなのかを考えていただきたい。
議会の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月山湖大噴水の高さが日本一であることを訪れた人がすぐに気づけるような看板を設置すべきだ。</li> <li>・寒河江ダム周辺全体の施設や資源を見直し、全体的な活用を国と連携して行うべきだ。</li> <li>・湖月山荘の解体時期を「新たな艇庫ができてから」としているが、その艇庫を含む1000mコースの建設計画に進展が見られない。もはや2020年の東京五輪には間に合わないと思われるが、ホストタウンとなったモルドバ共和国の練習会場として実際に使われることをふまえ、早急に具体的な事業実施案を示してほしい。それができなければ代替案の早期検討が必要だ。</li> <li>・寒河江ダムと同じ最上川ダム統合管理事務所が管理する「長井ダム」で遊覧船試験運行が行われた。寒河江ダムでは実施できないのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や大学等の研修も積極的に受け入れるなど、事業の対象をもっと広げて、その後の観光につながるようなものとすべきだ。</li> <li>・町がトップセールスとして前面に立つ必要がある。</li> <li>・宿泊業の所得向上が主目的だが、旅館や民宿等に対する後継者育成の取組みも並行して実施すべきだ。</li> <li>・自然教育学習センターの取組みとの連携はどうなっているのか。</li> </ul>



▲田植えを体験する中学生（平成22年度）

表1：議会による事務事業評価

No.	予算科目における事業名	合計評価点	全体評価	今後の方向性
1	民生委員推薦会に要する経費	80	2：良好	3：改善し継続
2	松ヶ沢堆積場管理事業	71	3：概ね適正	3：改善し継続
3	西山杉利活用推進事業	60	3：概ね適正	3：改善し継続
4	寒河江ダム関係に要する経費	49	4：問題あり	3：改善し継続
5	教育旅行拡充推進事業	48	4：問題あり	3：改善し継続
6	西川町プライダルサポート事業	47	4：問題あり	3：改善し継続
7	里山社会・文化研究所設置運営事業	34	4：問題あり	5：期間を設定し終了
8	仁田山放牧場事業運営費	24	5：かなり問題あり	5：期間を設定し終了

事業	西川町プライダルサポート事業	里山社会・文化研究所設置運営事業	仁田山放牧場事業運営費
評価	改善し継続	期間設定し終了	期間設定し終了
判定理由	結婚相談員は、積極的に活動する方の人選が必要である。また、仕事柄情報量の豊富な方や仲人上手な方の活用も検討すべきである。 結婚をまとめるという業務を考えれば結婚報償金はもっと額を上げていいのではないか。	設置の目的については理解するものの、構成メンバー等を再考し、研究項目を絞り込み町民が主体的に関わり、協働体制で取り組む研究所の設置が望まれる。 現事業、現体制については期限を設けて完了し、新たな事業展開をすべきである。	総合的な畜産振興に対して町の意欲が感じられず、町内の畜産農家の新規参入も期待できない。 景観保全や観光面での活用は、放牧場として利用しているうちは難しいと思われる。
議会の意見	成果を上げることは困難なことと思われるが、町民誰もが婚活に積極的に取り組んでいく意識醸成を図り、町民との協働で結果、成果を上げていくことが必要。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究所のメンバーについても再考し、目に見える事業成果を発信していくことが重要である。</li> <li>・この事業によって町民が受けるメリットを具体的に示す必要があり、精神論的な説明だけでは成果は上がらない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間業者とのクラスター協議会設立は町内の畜産振興にどう役立つのか。そもそも西川牛のブランドはどの程度認知されていて、それを守り、存続させる意義はあるのか。</li> <li>・気軽に立ち入ることのできない場所を観光資源として活用するのは困難である。景観を売り物にするなら別の視点で考え、大胆に変更して活用すべきだ。</li> <li>・公共牧場としての必要性があるというなら、町単独ではなく関係市町村や県とさらに連携して運営するような方向性を検討すべきだ。</li> </ul>



▶ほとんど使われていない「仁田山放牧場」の「くまのこ館」



# 活かそう我が町に

10月17日から19日にかけて、常任委員会合同視察  
研修として北海道内の2町に行ってきました。

## ☆総務厚生常任委員会

ひがしかわ

### 東川町

・人口 8313人  
 ・世帯数 3879世帯  
 ・面積 247km<sup>2</sup>

昭和60年6月1日の「写真の日」に、世界にも類のない「写真の町」宣言をしてから33年経過しています。

#### 写真の町「33年」の成果

- 視察先として選んだ理由**  
 定住人口確保対策や国際交流、インバウンドの推進などの先進地だからです。
- 写真の町宣言！**  
 東川町は北海道のほぼ中央部に位置し、日本最大の自然公園である「大雪山国立公園」の区域の一部になっています。
- ① 定住人口、交流人口、起業の増加
  - ② 写真文化に関する財産の蓄積
  - ③ 国内外と写真文化を通じた交流の継続
  - ④ 写真関係ネットワークの広がり
  - ⑤ 報道・雑誌紹介による知名度の向上
  - ⑥ 東川スタイルの定着
  - ⑦ 写真やイベントに関するノウハウの蓄積



▲ 会議室で説明を受ける議員

#### 207区画完売！

旭川空港から約10分、JR旭川駅から約30分と、旭川市のベッドタウンとして立地条件が良く、分譲宅地を8か所207区画造成し、それらを完売するなど、各種の移住、定住人口確保施策の成果が表れています。

#### 世界につながる

国際交流やインバウンドの推進に関して次の①～⑥の事業を展開するなど世界中の東川を目指しています。  
 様々な交流が実を結び、世界各地で「ひがしかわ」が広がり始めています。



▲ 世界各国の物産品などを展示

- ① 海外都市との友好提携
- ② 留学生の受け入れ
- ③ 日本語学校の開設
- ④ 多様な国際交流事業
- ⑤ JETプログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）による外国人職員の配置
- ⑥ 海外事務所の設置

#### 人口増1300人

以前の東川町の人口は減少傾向が続き、平成5年度には6973人と、7000人を切りましたが、6年度以降、「写真の町」事業や各関連施策の実施によって、26年11月4日に目標人口8000人を突破しました。30年9月現在の人口は8

#### 《まちづくりの主な成果》

20年度から29年度までの変化

★観光入込客数 83万7千人 → 148万9千人

★飲食店等の数 16軒 → 45軒

★税収額 8億4690万円 → 9億2160万円

313人のため、約1300人の人口増という素晴らしい成果です。

写真を媒介にして、知名度の向上や東川ファンの増加、魅力の再認識、地域消費の拡大、人材の育成・供給などが相互連鎖することによって、定住人口や交流人口、起業が増加し、1300人もの人口増加に結び付きました。そのにぎわいと活力あふれる町の姿は、本町も大いに参考にすべきものと考えます。

## ☆産業建設常任委員会

しもかわ

### 下川町

・人口 3347人  
 ・世帯数 1801世帯  
 ・面積 644km<sup>2</sup>

#### 視察先として選んだ理由

バイオマス産業都市構想に基づき先進的な取り組みを行なっている町だからです。

#### レジエンドの故郷

下川町は北海道の北部に位置し、面積の9割を森林が占めています。

スキージャンプが盛んで、町内にはジャンプ台が4基もあります。レジエンドとして有名な葛西紀明選手（かさいのりあき）の故郷であり、これまで7人のオリンピックを輩出するなど「スキージャンプの聖地」の町です。



▲ 木材のストックヤード

#### 林業予算1億円

森林活用小規模自治体のモデルとして林業に力を入れ、民有林の路網密度は日本平均の倍以上です。毎年1億円を予算化し循環型森林経営を実施して、製材品出荷額は年間33億円に上ります。

#### 再生エネルギー充実

平成21年4月に設置した「木質原料製造施設」は、

木質原料資源の収集から運搬、受け入れ、自然乾燥、燃料製造を行い、町内の施設に供給しています。当初は町直営でしたが、21年10月に設立した「下川エネルギー供給協同組合」に23年度から業務委託、24年度からは指定管理による委託を行なっています。

29年度の約1820万円の利益は協同組合と町で折半し、町は機械更新のための基金として積み立てています。

この森林バイオマスエネルギー利用としては、町内に木質バイオマスボイラーを10基設置し、30施設に熱供給を行なっています。公共施設の熱供給のうち68%を再生エネルギーへ転換したことで、年間1900万円の経費削減ができました。

#### エネルギーで集落再生

21年度、集落再生を目的として町内の「一の橋地域」にエネルギーマネジメントシステムを取り入れ、計画的に集住化住宅22戸や



▲ 一の橋地区地域熱供給システム

障がい者支援施設、郵便局等が入っている住民センター、特用林産物栽培研究所等を建設し、熱供給施設からの熱エネルギーで快適な空間を作り出しました。この取り組みの着手前と現在を比較すると、21年度に51・6%だったこの地域の高齢化率は28年度に27・6%まで回復しています。先進的な取り組みに共感した地域おこし協力隊の隊員が同地域に移住し、現役5人のほか退任して定着した方も3人います。

#### 産業へつなげる

下川町は「資源のあるところに産業が興る。エネルギーのあるところに産業が興る。」として、持続可能な環境未来都市を目指しています。

西川町では第6次総合計画の後期計画を策定中であり、地域資源活用型再生エネルギーをいかにまちづくりに活かすかということが大きな課題となっています。そのため取り組みを行うにあたって下川町の施策は大いに参考にすべきものと考えます。

# 知りたい!聞きたい!

## ～議会だより106号のアンケートより～ 読者モニターの広場



H.T.さん  
小水力発電は魅力的ですが、費用対効果を見極めていかなければなりません。1年後に運用実績など、調べてほしいです。



おっしゃるとおりです。完成したから終わりではなく、どう運用されるかが重要ですので、議会としても今後の運用について注視していきたいと考えます。



M.T.さん  
決算特別委員会の記事は、誰が質問誰が答えたかを書けないのでしょうか? いい質問は議員さんの有権者に対するアピールになるのでは?



質問者と回答者を明確に掲載している他町村議会もありますが、当議会では、氏名等の掲載を行っていません。今後の課題として検討したいと思います。



H.G.さん  
もっと画期的な活動をしている所に視察に行してほしい。



議会運営委員会の視察先に関しては、予定していた自治体で災害が発生したことなどにより急きょ変更した経緯がありました。今後も視察先の選定については検討を重ねたいと思います。



M.T.さん  
読者モニターの広場は、モニターにとってもアンケートを書くだけでなく、きちんと読んでもらっている感じがわかって、とても良いと思いました。



掲載の意図をご理解いただきうれしく思います。すべてを紹介することはできませんが、今後もモニターの皆さまのご意見を積極的に紹介したいと思います。



H.K.さん  
全てにおいて、私自身も町のことを勉強すべきだと思いました。現状がわからないままでは進めません。一人ひとりが目を向けるような意識が大切だと思いました。



今後とも議会だよりはもちろん町の広報紙などもあわせてお読みいただきたいと思います。このアンケートに限らず、疑問な点はぜひメールなどでもお問い合わせください。

ご感想をお寄せください

西川町議会では10人の町民の皆さまに議会だよりの読者モニターをお願いしています。アンケートにより寄せられたご質問やご意見には、きちんとお答えする心がけています。読者モニター以外の方でも、議会や議会だよりについて「知りたい!聞きたい!」という場合は、お気軽にお問い合わせください。

ファクシミリ 74-2601  
メール giji@town.nishikawa.yamagata.jp

## 待望の道路が完成



町道沢口向中軸線道路改良工事が完成し、去る12月14日、地元の方々による竣工式が行われました。この道路は、改良に伴い「町道元組・沢口線」として認定され、地元の方々の生活道路として大いに利用されることが期待されます。

★町道沢口向中軸線道路改良工事請負契約一部変更  
当初設計では、岩盤部以

★補正予算2件  
5ページの一覧表に掲載していただきますので、そちらをご確認ください。

## 工事情負契約変更

11月12日、平成30年第3回臨時会が開催されました。今回の臨時会では、契約変更1件と補正予算2件の議案が提出され、すべて原案どおり可決しました。

## 第3回臨時会 11月12日開催

外の掘削面の処理を「種子吹付のみ」としていたが、土砂掘削の結果、法面の一部に玉石の割合が非常に多い土砂が露出し、種子吹付のみでは土壌への植生が根付かず生長が望めないことから、その部分を厚層基材吹付工へ変更する。これに伴い751万1400円増額し、契約額を9553万1400円に変更する。(全員賛成)

## 議会の動き

- 11月12日 西川学園構想策定の中間報告ほか
- 12月3日 6次総後期計画等の見直し状況ほか
- 12月11日 事務事業評価、政策提言まとめ
- 11月5日 第3回臨時会の運営
- 11月19日 第4回定例会の運営
- 10月23日 事務調査「定住人口確保対策」ほか
- 11月6日 事務事業評価、政策提言検討
- 12月6日 請願審査、政策提言まとめ
- 10月23日 産業建設常任委員会
- 11月12日 事務事業評価、政策提言検討
- 12月6日 政策提言まとめ
- 10月17、19日 常任委員会合同行政視察研修(北海道)
- 12月25日 事務事業評価報告書、政策提言書提出
- 12月6日 広報公聴常任委員会
- 12月12日 編集会議
- 12月18日 入稿前編集会議
- 12月21日 第1回校正
- 12月26日 第2回校正
- 1月8日 第3回校正
- 12月25日 第4回校正、校了
- 12月7日 議会活性化議員懇談会
- 12月25日 議員のなり手確保対策まとめ
- 12月25日 議員のなり手確保対策にかかわる要望書提出



▲広報公聴常任委員会 第2回校正【12月21日】



▲総務厚生常任委員会 松ヶ沢堆積場管理事業の調査【10月23日】

# 輝きを増す子どもたち

様々な姿を見せてくれる

にしかわ保育園は現在、幼児77人、3歳未満児32人、合計109人の子どもたちが日々の生活を送っています。



## 「元気な子どもたち」シリーズ7

# にしかわ保育園

保護者会長 **高野 剛央** さん (睦合)

保育園では、夏祭りや運動会といった家族で参加できる大きなイベントのほか、毎月の誕生会やお店屋さんごっこなど数多くのイベントがあり、その都度かわいらしかったり、かっこよかったり、様々な姿を見せてもらっています。

そのほかに地域のみなさんとの交流もあります。最近では、テレビ放送されたことをご存知の方もいらっしゃると思いますが、高齢者運動会や啓翁桜の発表式などにも参加しています。子どもたちのほほえましい姿は、集まった方々の気持ちをほっこりさせるとともに、子どもたち自身にも良い刺激になっていると思います。

### 一人ひとりが主役に

12月15日には、保育園の大きなイベントの一つである「ぶなのもり発表会」が行われました。

当日は会場いっぱい集まった保護者や来賓の方々など大勢の観客が見守る中、年長児の「ミッキーマウスマーチ」で幕が開きました。続いて年少児による人気アニメをモチーフにしたかわいなお遊戯、年中児は今年の人気ソングを使ったかっこいいお遊戯、年中児と年長児それぞれのオペレッタ(音楽劇)、そして歌の発表。エンディングは、年長児による手遊びを取り入れた歌が2曲披露され、計10演目の最後を飾りました。



▲年長児の「ミッキーマウスマーチ」

園児一人ひとりがキラキラ輝いて主役となり、みんなで力を合わせた発表会は、盛大な拍手のもと大成功となりました。ご家族の方々には、わが子が少しまぶしく見えたのではないのでしょうか。これもひとえに日々の練習と舞台裏でがんばっていただいた先生方のおかげです。本当に感謝の言葉しかありません。



※上記QRコードをスマートフォンなどで読み取ると、議会ホームページにアクセスします。

### 議会へのおさそい

皆さん傍聴してみませんか。  
面倒な手続きは何もありません。  
ぜひお気軽に！  
**次回定例会は3月です**  
(3月4日～14日の予定)

## 編集後記

明けまして、おめでとうございませう。

昨年はモリカケからセクハラ、改ざん、ねつ造、水増し、働き方改革、入管法力ジノと水道民営化等々、中身も決まり方も異常な国会でした。

今年は統一方選挙、参議院選挙など、世直しの1年が始まります。「年金も減らされ、介護保険、後期高齢者医療も天引きされ、その上、消費税10%になったら、食べて行けない」と訴えがありました。国政は町政に直結しています。これから暮しを守るためがんばってまいります。

今年もよろしくお願いいたします。  
(飯野 咲子)

### 《発行・編集責任者》

議長 伊藤 哲治

### 《編集委員》

委員長	大江 広康
副委員長	飯野 咲子
委員	宮林 昌弘
委員	佐藤 幸吉
委員	大泉 奈美